

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：32605

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K13004

研究課題名（和文）認知症高齢者の早期発見・早期支援における予防的ソーシャルワークの検証

研究課題名（英文）Verification of preventive social work in early detection and early support for elderly people with dementia

研究代表者

久松 信夫（Hisamatsu, Nobuo）

桜美林大学・健康福祉学群・教授

研究者番号：30389845

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：高齢者ソーシャルワークにおけるインボランタリー・クライアントへのアウトリーチに関する文献研究を実施した。海外文献を中心に文献を検索し、接近困難なクライアントへのソーシャルワーク全般やアウトリーチのあり方の研究の存在を発見した。接近困難なクライアントやインボランタリー・クライアントへのアウトリーチにはクライアントのリスクをソーシャルワーカーがアセスメントする必要性を把握し、さらにリスク概念とアウトリーチやソーシャルワークの関連性の主張を確立する必要がある。また、このリスク概念がアウトリーチの介入にどのように援用できるのか、そのアプローチモデルの提唱が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域には支援が必要にもかかわらず支援を求めない、声をあげられない人々や高齢者が存在する。そのような人々に積極的に関わり何らかの支援を行うのがソーシャルワークでありアウトリーチ手法である。これらの人々は社会的孤立の状態に陥る可能性があるため、アウトリーチに関する研究蓄積は必須である。にもかかわらず、高齢者ソーシャルワークにおいて体系的な研究がなされていないため、本研究テーマに取り組む学術的意義がある。また、地域住民や関係者も含めたアウトリーチのあり方を研究することは、高齢者本人や地域住民が安心して地域生活を営めるようにする目的と意義がある。また、多職種連携のあり方にも貢献できるテーマである。

研究成果の概要（英文）：We conducted a literature study on outreach to involuntary clients in geriatric social work. We searched for literature, mainly from overseas, and discovered the existence of research on general social work and outreach methods for hard to reach clients to approach. Understand the need for social workers to assess the risk of clients when conducting outreach to hard-to-reach or involuntary clients, and establish the relationship between the concept of risk, outreach, and social work. There is a need. Furthermore, it is necessary to propose an approach model for how this risk concept can be applied to outreach interventions.

研究分野：高齢者ソーシャルワーク

キーワード：地域包括支援センター ソーシャルワーカー アウトリーチ

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

筆者は、在宅の認知症高齢者を早期発見する機能をもつ地域包括支援センターの社会福祉士による、認知症高齢者へのアウトリーチが効果的に発揮できる条件と、アウトリーチが果たす役割の因子を発見した。この研究過程で、特に独居認知症高齢者の早期発見・早期支援をいかに行うか、そのアウトリーチのあり方が課題であることが判明した。

一方、独居認知症高齢者の早期発見・早期支援の研究を自ら行った結果、早期発見には3局面、早期支援には4局面から構成されるプロセスを発見した。また、認知症高齢者支援に不可欠な早期段階におけるソーシャルワーカーの代弁プロセスも解明した。これらの研究は、認知症高齢者の生活課題の重篤化を予防する、ソーシャルワーク支援の特性であることが示唆された。

そのため、認知症高齢者の早期発見・早期支援を行う地域包括支援センターが行うアウトリーチの実態と課題を把握し、そこから得られた知見を地域包括支援センターに還元する必要性が見出された。

2. 研究の目的

本研究は、在宅認知症高齢者の生活課題の重篤化を予防する視点から、認知症高齢者の早期発見・早期対応を行う、予防的なソーシャルワーク支援の実態を把握し、予防的なソーシャルワーク実践を行う過程における課題を明らかにするものである。

具体的には、地域包括支援センターの社会福祉士による認知症高齢者へのアウトリーチの実態と課題を把握し、地域包括支援センターの現場で実用的に応用できるよう還元する。そのことによって、地域包括支援センターのソーシャルワーク実践の基幹的なアウトリーチの実践のあり方が検討でき、ひいては認知症高齢者やその疑いのある高齢者、家族、地域住民の安寧な生活に寄与できると考えられる。

3. 研究の方法

アウトリーチが必要なクライアントには、いわゆるインボランタリー・クライアントや接近困難なクライアントなどの支援に否定的なクライアントが対象となることが多い。また、アウトリーチの実践はわが国に限定されるものではなく、国外においても実践されており、同時にインボランタリー・クライアントや接近困難なクライアントなどは国外でも存在すると考えられる。そのため、インボランタリー・クライアントや接近困難なクライアントなどへのアウトリーチ研究が国外でどのように展開されているのか、研究論文の検索を行う必要があるため、先行研究の検索と分析を行った。

加えて、実態調査も行った。地域包括支援センターの実務経験3年以上の社会福祉士にインタビュー調査、質問紙調査を実施した。スノーボールサンプリングを実施して、認知症高齢者やその疑いのある高齢者のうち、支援に否定的な高齢者にアウトリーチを行う実態を調査した。得られた結果は、質問紙調査は質問項目ごとに関連事項をまとめ、インタビュー調査は質的分析法を用いて分析した。

4. 研究成果

国外の研究論文においては、アウトリーチはサービスへのアクセスを保証するものであるとするアクセシビリティから捉えた研究、インボランタリー・クライアントへの対応と倫理的な課題を取り扱った研究、インボランタリー・クライアントへの対応を効果的におこなうための戦略的な方法を模索した研究などがあり、それらの各テーマごとに先行研究を分析した。

質問紙調査からは、アウトリーチが必要な地域の高齢者の特性が抽出された。支援に否定的な高齢者、独居の高齢者、夫婦二人暮らしで地域との交流がない高齢者、身寄りのない高齢者、医療ニーズ(身体的、精神的)がありながらも医療機関未受診の高齢者など多様な地域の高齢者がアウトリーチの対象になっていることがわかった。

インタビュー調査からは、アウトリーチの実践プロセスが抽出された。アウトリーチの対象者の把握を行い、どのように生活状況をアセスメントするのか、さらに今後のアプローチ方法の検討や対応を多職種で行う局面とその内容、多職種連携の課題、アウトリーチの終結までの具体的な各プロセスの内容を把握することができた。

アウトリーチは対象となる高齢者の生活状況の悪化や予測される何らかの危険性を回避するための実践でもあるが、その実践はリスクアセスメントを行っており、多職種との連携のあり方はリスクコミュニケーションの実践過程でもあることが示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 久松信夫	4. 巻 3
2. 論文標題 支援に否定的な高齢者へのアウトリーチとリスクコミュニケーション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 桜美林大学研究紀要 総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 196-208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 久松信夫	4. 巻 2
2. 論文標題 在宅高齢者支援におけるソーシャルワーカーの多職種連携の現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 桜美林大学研究紀要 「総合人間科学研究」	6. 最初と最後の頁 253-260
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 久松信夫	4. 巻 46（4）
2. 論文標題 なぜ支援に否定的な高齢者にアウトリーチを行うのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 久松信夫	4. 巻 11
2. 論文標題 BPSDにおける心理的背景の理解と代弁の実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 認知症ケア事例ジャーナル	6. 最初と最後の頁 216-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久松信夫	4. 巻 10
2. 論文標題 高齢者ソーシャルワークにおける支援困難事例に関する研究動向	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桜美林論考 自然科学・総合科学	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久松信夫	4. 巻 4
2. 論文標題 地域包括支援センター社会福祉士のソーシャルワーク実践における多職種連携の文献レビュー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 桜美林論考 総合人間科学研究	6. 最初と最後の頁 109-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 久松信夫
2. 発表標題 ソーシャルワークの視点から生活支援を考える
3. 学会等名 日本老年学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久松信夫
2. 発表標題 認知症初期集中支援チームの社会福祉系チーム員の困難事例に関する認識
3. 学会等名 日本認知症ケア学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------